

《教員採用試験の結果が出たらどうするか？》

－「任用前準備講座」と「再チャレンジ講座」の活用を－

【相談指導員 柳原忠夫】

10月上旬までに各自治体の教員採用試験合格発表がありました。合格された皆さん、おめでとうございます。来年の4月からは晴れて立派な「先生」になりますね。とは言え、来年の4月まで5ヶ月もあります。それまで何をすればいいのでしょうか。また、残念ながら教員採用試験に合格しなかった人は、卒業後、どんな進路選択があるのでしょうか。これから採用試験を受験する人にも参考になると思うので、少しお話ししましょう。

二次試験に合格したら、10月～11月にかけて教育委員会に必要な書類等を提出しますが、それが終わると基本的には何もありません。次に教育委員会から連絡が来るのは、早くても来年の2月以降です。遅ければ3月下旬になるでしょう。なぜなら、現役の先生たちの異動作業が終わり、各学校の来年度のクラス数が決まり、必要な先生の数や新規採用者（これが今年の合格者です）の数がわかるのが2月下旬だからです。

と言うことは、連絡が来るまではヒマなのですが、ここで何もしなかったら危険です。せっかく夢の教員になったのに、すぐに退職したり休職したりしてしまう教員が多いことはご存知のとおりです。これは、何の準備や心構えもなく学校現場に入ってしまったため、仕事についていけなかったりメンタルを病んだりすることが大きな原因の一つです。教員は一般企業と違って配属前に十分な研修期間がありません。だから、自分で準備するしかないので。

ですから、残り少ない学生生活を楽しんだり旅行したりするのも大切なことですが、今から4月1日までの間に、出来るだけ学校のことを知ったり、自分の教科の教材研究や授業準備をしたりしておくことが必要です。中学や高校の教科書に目を通し、体育なら全ての種目、社会なら地理、歴史、公民等の全分野について、年間指導計画や各単元の授業計画をシミュレーションしましょう。また、新卒・初任者向けの教育書を読んだり、近隣の学校にボランティアに行ったりするのもいいでしょう。とにかく「教員になる」という自覚が大切です。

「4月までの準備についてもっと詳しく知りたい」「学校現場のことについて教えて欲しい」と言う人のために、教職課程センターでは「任用前準備講座」（60分程度）を用意しています。また、残念ながら今年の採用試験に合格せず来年も受験しようと思う人は、卒業後は学校関係の仕事をしながら準備すると有利です。そういう人のためには「再チャレンジ講座」（60分程度）があります。時間講師や臨時的任用教員の登録方法や仕事内容、再受験のための勉強方法などについて説明します。「任用前準備講座」も「再チャレンジ講座」も個別に対応しますので、希望する方は教職課程センターにご連絡ください。

合格された皆さんが教員という仕事にやりがいをもって楽しく充実した日々を送ってくれること、それに続いて3年生以下の皆さんや再チャレンジする方々が教員採用試験に合格されることを、願ってやみません。

◇教職課程センターHP

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/

◇(多摩)教職・資格まとめHP

<https://www.hosei.ac.jp/tama/important/article-20260203145507/>

教職課程センター多摩相談室からのお知らせを
希望される方は、こちらからご登録ください。



《授業準備について》

【相談指導員 池田 玲子】

酷暑という言葉を今年初めて聞きましたが、気が付けば夏も終わり、多摩キャンパスもすっかり秋の気配に満ちています。夏の思い出に浸る間もなく、10月5日からは第2期の教員採用試験対策講座がスタートしています。次の目標に向かって走り出している方も多いと思います。

夏休みと言えば、世間一般の方から「先生は夏休みがあつていいですね!」とよく言われます。皆さんの中にもそういうイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。かくいう私も「夏休みがあるから、教師はお得だ!」と思っていた一人です。

しかしいざ教員になってみると、夏休みは確かに通常の業務形態とは異なるものの、夏期講習、受験指導、部活の指導、宿泊学習の引率、研修などなど「夏休みならではの」業務が待っています。ぼんやりしているとあっという間に2学期が始まってしまう。

そしてこの夏休みの間に「絶対しておいた方がよいこと」がありました。そう、表題のとおり「授業準備」です。1学期は何とか勢いで授業を乗り切ったものの、2学期(秋学期)からは長い日々が始まります。秋は遠足や文化祭など行事も多く、なかなか授業準備に時間を割けません。特に中学や高校の最終学年を受け持つと、受験指導や出願書類の作成など非常に神経を使う仕事が続きます。(間違えたらその生徒の人生が変わってしまいます!)

そのため、2学期以降の日々の生活を少しでも余裕のあるものにするために、夏休み中の授業準備は欠かせないものでした。時々「授業の準備なんて前日で十分」という方に出会いますが(なかには「しなくても大丈夫」という方も)、社会科ではそういった猛者にはあまりお目にかかることはありませんでした。

世の中はものすごいスピードで動いています。教師も同じく新しいことを学んでいく必要があります。特に社会科の場合は国内、国外の時事問題などは見逃せません。今はどうかわかりませんが、共通テストに出題される時事問題は大体夏前くらい?までのものが多いように感じました。資料も中高生のためにかみ砕いたようなものもないことが多く、仕方なく資料作りをしなければならず、授業準備にはいくら時間をかけても足りない…!というのが私の25年間の印象です。気持ちも(そして実際に)いつも走っているような状態でした。

世の中のスピード、といえば先日面白いお話をある企業さんから伺いました。どのようにAIを日々の業務に生かしているか?というテーマでのお話だったのですが、「AIによって今までは3~4か月かかっていた仕事が、2~3日でできるようになった。これで仕事に余裕が生まれる…と思ったのも束の間、空いた時間で従来の数十倍の量の試作品を作らなければ、競合他社にはとても太刀打ちできなくなりました。」とのこと。AIは仕事を楽にしてくれる!!と思いきや、そうとも言えないようです。そしてその方は続けて「まあ、今私が話していることも、1か月後には鮮度がすっかり落ちてしまっているかもしれませんね~」とも…。光陰矢のごとし。とはいえ人間には人間にしかできないこともたくさんあります。AIのために業務形態が変わり、配置転換を嫌がる社員さんに対して、社長さんはこういうそうです。「機械にできることは機械に任せて、人間にしかできないことをやりましょう!」これからの学びを教室の中で生徒の皆さんと考えていけると良いですね。

◎教職相談の申し込み、質問はこちらへ

★窓口へ来室、もしくはメールにて事前申し込み★

メールは、公的な依頼文にふさわしい文体・体裁を考え、かつ以下の内容を必ず盛り込むようにして下さい。

- ① 氏名 ② 学部・学科 ③ 学年 ④ 学生証番号 ⑤ 面談希望時間(第3希望まで)
⑥ 相談内容 ⑦ メールアドレス(PCから受信可能なもの)を必ず記入してください。

*宛先(教職課程センター多摩相談室)

kyoshokutama3★ml.hosei.ac.jp
(★をアットマークに変えてください)

(月・水)・柳原先生
(火)・池田先生

※教職履修・単位
に関わる質問は、
所属学部窓口へお
願いします。